

## 東京湾再生官民連携フォーラム 令和6年度事業計画・予算

## 令和6年度事業計画

令和5年4月より東京湾再生のための行動計画（第三期）が開始となった。フォーラム活動は、第二期の反省と実績を踏まえて、第三期計画においては、さらにさまざまな組織・団体と連携を図りながら運営をすすめていく。

第三期目標は、『快適に水遊びができ、「江戸前」をはじめ多くの生物が生息する、親しみやすく美しい豊かな「海」を多様な主体が協力しあうことで取り戻す ～ 流域3,000万人の心を豊かにする「東京湾」の創出 ～』が掲げられている。

令和6年度においては、目標達成に寄与するため、背後住民のより幅広い年代層に東京湾再生活動を具体的に知ってもらうきっかけづくりをさらに進める。東京湾大感謝祭の活用や東京湾の日を具体的な入口として、点と点を結び線になるように連携を図り、東京湾再生活動への提案とその活動に幅広い市民の理解・協力を得られるように取り組む。急速に変化する社会、自然環境への対応を見すえ地域ごとに対応した方法を見出していきたい。

令和6年度の実行ポイントは、以下の通り。

- (1) 東京湾再生のための行動計画（第三期）に伴う取り組みの検討と実行
- (2) フォーラムの広報・普及活動の強化
- (3) 東京湾大感謝祭の活用による多様な活動の交流と情報提供の強化
- (4) 東京湾をめぐる脱炭素、気候変動など社会・自然課題解決にむけたチャレンジ

## I. 令和6年度活動内容

## 1. 情報（提供・仲介）の発信・交流（広報）

## 1) 情報発信や交流

第三期 東京湾再生のための行動計画が、2023年4月よりスタートしている。令和4年（2021年）3月に第三期計画への政策提案をしており、フォーラム独自の提案をさらに検討し、この目標実現のため役割を果たしていく。

## 2) 広報・普及活動の見直し・強化による新体制づくり

広報の強化を図る「東京湾再生・感謝祭デザインチーム」と「広報コミュニケーションチーム」を立ち上げや東京湾再生行動計画（第三期）の副題を踏まえ、より多くの市民、生活者への再生活動への理解促進を図り、情報交流の拡大に繋げていく。

（参考p10：東京湾再生・感謝祭デザインチーム、広報コミュニケーションチーム参加メンバー）

会員を含めた横の連携を強め、統合的な広報・普及活動を目指し、さらに深くできるような情報交流活動につなげていく。ファミリー層を中心に感謝祭参加者、ボランティア、大学生、高校生、子供たちなどの世代を通して意見を集約していく機会を増やし、東京湾に対する意識調査・研究情報発信などを通して情報交流を図っていく。

### 3) 刷新した東京湾大感謝祭 2024 の実施

フォーラム活動の結節点となる東京湾大感謝祭は、2023 年は新たに横浜市役所アトリウムを会場に開催し、コンパクトで第三期の目的に沿った参加交流ができる持続性のある実施を目指した。2024 年も同様に「東京湾の魅力を発見しよう～みんなで東京湾の未来をつくろう～」をキャッチに、東京湾に目を向けてくれる。広範な参加交流を目指し、財源の安定化の維持のための仕組みづくり、さらに若手人財の育成、多くの湾岸自治体の参加を図り。フォーラムの広報・普及活動の柱としての実現に取り組んでいく。

### 4) 「活動の環の拡大」(第三期行動計画) に対応した情報交流活動

第三期計画目標の副題「～流域 3,000 万人の心を豊かにする「東京湾」の創出～」にあるより多くの市民を対象を広げた交流機会の創出が求められている。そして、①豊かな水環境の実現、②楽しく、親しみやすい東京湾の創出、③活動の環(わ)の拡大、がポイントとして示されている。特に、新しく提示された「③活動の環(わ)の拡大」を意識して、海と河川などとのつなぎの役割の機能するような機会の創出を図っていく。

フォーラム広報コミュニケーション会議等で提案された広報活動を具体的に実現していく検討を積み重ねる。

### 5) 東京湾を体験する場の提供

創造力を養う自然・文化の体験の場づくりを行い、東京湾循環環境教育を図っていく。

体験の場を提供するプロジェクトチーム活動を支援し、東京湾大感謝祭を活用して、展示やステージでの啓発など生き物体験や屋外を活用しての体験学習の機会創出し、に、新しい交流の場づくりを試みる。

また、スタンプラリーは、過去に東京湾の窓 PT で実績があることから、さらに環境学習や体験活動に結び付けたラリープログラムを検討するなど、NPO 同士の交流または沿岸域での組織・団体の活動交流を図る。

### 6) HP や特設ウェブサイトでのコンテンツの蓄積やメール配信による継続的な広報・普及活動の実施

会員、PT 活動によるコンテンツ、東京湾感謝祭の出展コンテンツなどの活用を検討し、継続的なフォーラムの広報・普及活動につなげていく。情報の提供の仕方を工夫して、HP やメディアプラットフォーム、SNS などを活用して継続的な東京湾の活動を伝えていく。

同時に YouTube での動画の掲出など「東京湾の日・みんなで再生」動画の掲出継続、「ぐるっと東京湾！自然と魅力のワクワク情報」との企画連携やコンテンツ情報についてのシナジーを図る。」脱炭素社会の形成に寄与した活動を見据え、PT 相互間、会員、市民のコミュニケーションサイトとして機能を高めていく。

会員を繋ぐ「東京湾-News Letter」の配信を年間 50 通の配信を目指す。

## 7) フォーラム活動の行動計画（第二期）の記録冊子の活用

第二期計画からのフォーラム活動を紹介した記録冊子を増刷し、PR 資料として活用していく。会員及び新規会員からの寄付の促進として冊子を交換するなど寄附の方法を継続して実施していく。さらに、冊子に収録しているコンテンツの再編集を行いウェブ掲出など検討し、今後のコンテンツの充実や PR に取り組んでいく。

## 2.交流・連携活動

### 1) 再生推進会議との一層の連携

○東京湾再生推進会議とフォーラムの連携のキャッチボールを継続して実施する。

令和5年度には、PT など政策提案者へ情報提供(フィードバック)し、ともに実現方策を検討するといったフォローアップの仕組みを検討する。例えば、東京湾スクラム・ミーティングと称するキャッチボールができる場を作り出していく。

○分野横断的で現場実証的な取り組みを官民で試みる。

生き物生息場づくりPTでは、官民連携によりマコガレイの産卵場の実証・検証などを行いつつ、議論を進めている。東京湾の窓 PT では、施設のネットワーク化を目指している。こうした現場の官民の取り組みを支援する。湾への影響が大きい流入河川などにおいては、関係自治体や関係省庁などへのアプローチを図っていく。

○国交省「海とみなとの相談窓口」、海上保安庁「海の相談室」の活用・連携・交流

国交省は、フリーダイヤル：0120-497370 を設置し、海やみなとでの自然再生、海での自然体験・環境学習の相談を受け付けている。また、海上保安庁が「海の相談室」045-211-1118（内線：2511）潮汐・海水温情報の入手が可能などを設けている。

こうした窓口寄せられた東京湾再生につながる情報を官民で共有し連携につなげる。

### 2) クリーンアップ東京湾 海ごみ、プラゴミ・ストップ 2023

コロナ禍による制約からの活動の復活に向け多数の人が集合するリアルなクリーンアップのイベント活動、その周辺活動に引き続き取り組む。

「東京湾の日」活動のひとつとして、クリーンアップ活動を推進する後援等を行い、市民が意識して参加できる身近な活動を支援する。会員への告知活動から東京湾周辺生活者のつながりへと広げていく。

河川をフィールドとした会員の清掃活動や河川流域のエリアを中心に活動している NPO との結びつき、働きかけを強めていく。みんなの東京湾みんなで再生リーフレットや第三期に掲出しているアピールポイントなどを通して連携を図る。

### 3) 表彰制度の検討

東京湾をフィールドとして活動している企業、団体・組織、個人の方々に対して、市民目線からみた表彰、称賛方法・顕彰制度を検討する。東京湾大感謝祭での表彰の検討を図る。

#### 4) 「東京湾の日」の交流活動

東京湾の多様性や大都市を支えている東京湾への理解促進を図る。

首都圏、東京湾背後圏に住む約 3,000 万人の生活者が、東京湾の大切さ、その自然資源等に気づき、東京湾の恵みを暮らしの中で意識できる「東京湾の日・10月1日」となるような活動を推進する。この日と連動して川柳&photo コンテストの募集を全国規模で行い、東京湾だけではなく大阪、伊勢、広島湾など生活に密着した湾との情報交流を図ることで各地の湾に対する意識の向上に努めていく。

- ・東京湾感謝祭 2024 との連携
- ・「東京湾の日」の浸透を図るため、ポスター、チラシによる PR の実施。およびパネル展示の実施。
- ・第 4 回 川柳&photo コンテストの実施。

東京湾の持つ自然の魅力、生き物・生命が持つ魅力を東京湾の日のにのせて醸成していく。

(川柳&photo コンテストの第 1 回応募者数：川柳部門 244 点、第 2 回 549 点、

第 3 回 519 句(内キッズ 9 句) photo 部門 第 1 回 34 点、第 2 回 39 点、第 3 回 29 点)

#### 5) CSR - NPO 未来交流会の実施

NPO と企業間の交流実績を高めるとともに、業界間の垣根を越えた交流を行い、参加組織団体への情報フォローや具体的な相談など受け入れ活動を推進する。CSR テーマは、地球環境、気候変動、自然資源の保全や活用、生物多様性への取り組み、持続可能な開発目標 (SDGs) なども視野に入れて、今後活発な議論の呼び水となるよう取り組んでいく。引き続き、一般財団法人 セブン-イレブン記念財団、経団連自然協議会さまの支援を受け交流活動を実施する。

- ・令和 6 年度は、東京湾感謝祭 2024 との連携を図り、さらに、「海の相談コーナー」と合わせて、企画検討していく。

### 3. フォーラム会員

個人会員 500 名、団体会員 150 組織の会員を目指す

会員は、(2024.12 時点) 団体会員：139 団体、個人会員：333 人、の構成となっている。最近では、小学生の直接会員加入もあり、ファミリー層への浸透をより一層進めていく。河川流域等で活動している NPO 等の加入を促進する。

会員においては、生き物の保全、海ゴミ・プラごみの清掃活動などへの参加をやすくするための情報提供や、環境省の「地域循環共生圏づくり」・SDGs 活動等の組織活動の情報提供など、会員活動の促進を図るサポートを行っていく。

### 4. 政策提案

フォーラムの諸活動により得られた東京湾再生への検討成果・課題等を取りまとめ、東京湾再生推進会議への具体的な取組や改善策等の提案を目指す。今年度は、生き物生息場 P T が政策提案を検討している。また令和 5 年度、第三期に対応して「東京湾再生行動計画 (第三期)

2024年3月6日

の指標に関する提案」として、国の施策と関連づけした指標項目を提案している。令和6年度に於いては引き続き、指標PTを支援し下記に対する指標活用をはかっていく。

- ① 行動計画（第二期）の全体目標から継続的な目標要素である「江戸前」を評価する指標
- ② 全体目標に新たに加わった目標要素の「流域 3000 万人の心を豊かにする『東京湾』の創出」を評価する指標
- ③ 行動計画（第三期）では、陸域対策に係る施策・プロジェクト、海域対策に係る施策・プロジェクト、モニタリングに係る施策・プロジェクトが定められているが、それらを繋ぐ総合的な指標
- ④ ブルーカーボンやマイクロプラスチック等の新たな環境課題に対する指標

今後各 PT 活動の成果等をベースに政策提案の役割を果たしていく。

## 5. 統一テーマでの活動

東京湾は貴重な環境資源であり、流域住民の生活 環境、文化、産業の豊かさと多様性を支えている。「新しい東京湾 みんなで東京湾の未来をつくろう」を共通の理念として、フォーラム諸活動を統一する結節点として、東京湾感謝祭 2024 の実施および「東京湾の日」の促進を図る。

### ① 東京湾感謝祭 2024 の実施

世代交代を試みながら東京湾感謝祭 2024 をサポートしていく。

2024 年度は 6 千人の参加者を想定する。

### ② 「東京湾の日」の実施

東京湾の理解促進を図るため「東京湾の日」を広く広報し実施してゆく。東京湾再生アンバサダーの役割を検討し、「東京湾の日」と連動できるガイド役、身近で親しみのある方への協力の検討を図る。アンバサダーの追加依頼などを検討していく。

## 6. 調査研究（PT 活動へのサポート）

PT 活動の支援に際し、若い方の参加ができるようフォーラムのしきいを低くし、PT 活動のサポートをおこなっていく。

第三期の目標や社会・自然課題の解決に向けた PT 活動（イベント型活動及び調査研究型活動）に協力し、サポートする。

新分野、例えば、①脱炭素活動 ②海洋汚染対策活動、③ご当地の東京湾関連環境保全などに取り組むNPOなどを支援し、新たなPTの設立を後押しする。

各PTが主体的に推進できるようフォーラム事務局では、縁の下のサポートを実施している。PTのみでは手が足りない具体的活動への協力支援を図る。

①新体制での「東京湾感謝祭 2024」の運営サポート。「東京湾の日」の認知普及の実施。

②「指標活用PT」による、フォーラムHP利用しての関連他団体へのアンケート収集のサポート。

③江戸前勉強会の支援

「モニタリング PT」関連の「江戸前勉強会」について引き続き共催支援。

④「東京湾窓 PT」の成果である Facebook「ぐるっと東京湾！自然と魅力のワクワク情報」を引き続き支援。環境学習機能のある 20 施設の参加促進。

Facebook「ぐるっと東京湾！自然と魅力のワクワク情報」

<https://www.facebook.com/groups/tokyowaninfo/>

また、都民、市民に対して施設からの「学習機会の提供」などをサポート。

⑤「多摩川河口干潟ワイズユース PT」の観察会、周辺企業とのコラボレーションを進めている。東京湾と河川を結ぶ交流活動のサポートを行う。

⑥通信、オンラインやウェブの活用における共通課題・個人情報の保護・著作権等への配慮・権利保護など、PT 活動における運用面等へのアドバイスやサポート。

⑦PT への関連する情報提供の実施。PT メンバーの募集支援など

## 7. 事業化、スポンサードの獲得について

「統一テーマによる行動」としての感謝祭等イベント実施を支援していただくために、企業支援組織等からのスポンサードの獲得を目指す。企業からの賛同を得やすい工夫を行い、事業推進を図る。また東京湾再生のための寄附等の協力呼びかけを実施する。

東京湾感謝祭 2024 の実施と合わせて、事業継続を図る基金の創設や運用方法を検討していく。また連携イベントの拡充を図り、企業協賛の拡充を図っていく。

## 8. 他団体との連携

国連生物多様性 10 年日本委員会、経団連自然保護協議会、(環境省)「プラスチック・スマート」キャンペーンの参加協力など、様々な団体との連携を引き続き行う。さらに「環境省ローカル SDGs (地域循環共生圏) 実践地域等登録」、「30 by 30 アライアンス参加」により、参加団体 企業とのシナジーを図る。経団連自然協議会シンポジウム・企業と NGO との交流会などに参加する。関連各組織団体と連携したフォーラム活動を推進し、地球環境全体の取り組みと繋がった東京湾の水環境の改善、生き物保全の活動を検討する。

東京湾岸の各自自治体では、それぞれ独自の港まつりを実施している。各地域への展示出展等を計画検討する。対面交流ができる機会にフォーラム会員が利用できるブース出展等を計画し、交流の機会を増やしていく。令和 6 年度は、うみ博、川崎みなと祭り、東京港 港まつりなどへの参加を図る。

## 9. 後援・協賛等の連携

会員や関連団体の実施するイベントや講演会に対し、フォーラムの「後援・協賛」を引き続き実施する。今年度は東京湾大感謝祭の連携イベント等とのシナジーを図り、より「西なぎさ発:東京里海エイド」(D E X T E - K 主催)「東京湾シンポジウム」(国総研主催)、さらに、「クリーンアップ 東京湾 海ごみ、プラゴミ・ストップ活動」への後援・協賛をおこなう。また、例年実施されている東京湾環境一斉調査と合わせ、同時に行われる生きもの調査

の実施への支援・協力・共催を図っていく。

#### 10. 相談窓口（コンサルティング）

関連市民活動からの相談を受付、ふさわしい相談先 PT や官の窓口を紹介するなどの努力をする。CSR-NPO 交流会で巡り合った新しい組織団体などからの相談の窓口となる。

PT 活動の中の自然環境調査における届け出文書などの共通化やひな形の提示などの支援を行う。

#### 11. 啓発・人材育成

若手の参加人材育成に力を注ぎ、参加しやすい環境づくりを行う。

各PTの啓発・人事育成の支援に取り組む。特に、PTが独自に必要な資金を獲得できるように、助成金申請のノウハウや知りえた助成申請情報等の紹介・周知を行う。

#### 12. その他

新型コロナウイルスへの対応が変化してきているが、今後も Zoom 活用など柔軟な対応を図る。そのためネットを利用しての通信環境や必要ソフトウェアを整備していく。また PT 活動、会員相互のコミュニケーション促進へ支援を行う。

## Ⅱ. 令和6年度スケジュール

## おもな年間スケジュール予定

年月	項目
2023年 4月	東京湾 photo/川柳コンテスト用 チラシポスター検討
	第2回広報コミュニケーション会議
	第2回東京湾大感謝祭デザインチーム会議（東京湾大感謝祭実行委員会）
5月	R6 第1回企画運営委員会開催.
	連携事業の検討、大学等社会連携の検討
	第3回東京湾大感謝祭デザインチーム会議（東京湾大感謝祭実行委員会）
	第3回広報コミュニケーション会議
	第4回東京湾 phot/ 川柳コンテスト募集準備 東京湾の日チラシ/ポスター配布
6月	東京湾 phot/川柳コンテスト募集期間 6/1(木)-8/31(木)
	指標データ収集協力(PT 活動)
	第4回東京湾大感謝祭デザインチーム会議（東京湾大感謝祭実行委員会）、 感謝祭連携事業支援(横浜港開港祭等)
	東京湾クリーンアップ活動（第6回 うらやす三番瀬感謝祭 参加）
7月	第4回広報コミュニケーション会議
	R6 第2回企画運営委員会開催
	第5回東京湾大感謝祭デザインチーム会議（東京湾大感謝祭実行委員会）
8月	西なぎさ発：東京里海エイド クリーンアップサポート活動
	東京湾環境一斉調査（PT 活動） CSR-NPO 未来交流会 作成
	第6回東京湾大感謝祭デザインチーム会議（東京湾大感謝祭実行委員会）
	感謝祭連携事業支援（うみ博参加）
9月	R6 第3回企画運営委員会開催.
	川柳 photo コンテスト 審査決定
	第7回東京湾大感謝祭デザインチーム会議（東京湾大感謝祭実行委員会）
	東京湾大感謝祭 2024 開催（9/28.29）
10月	フォーラム総会開催 10/5
11月	CSR-NPO 未来交流会実施
	東京湾感謝祭 2024 結果報告
	葛西海浜公園西なぎさ クリーンアップサポート活動
12月	次年度計画、今年度事業報告書の作成
	マコガレ調査(PT 活動)
	第三期計画の確認
2024年 1月	会員募集活動
	東京湾感謝祭 2025 会議
2月	R6 事業報告書作成
3月	R6 第4回企画運営委員会開催 PT 長 2024 会議



## II. 令和6年度予算

## 東京湾再生官民連携フォーラム令和6年度予算

## フォーラム活動予算内訳

作成：令和6年3月6日

収入の部		科目	予算額(円)	単価	数量 (一式)	備考			
		寄付金収入	100,000	×	1	見込み			
		助成金収入	3,999,339	×	1	セブンイレブン記念財団			
		雑収入	繰越金	×	1	今後決算			
			普通利息	×	1				
			その他	×	1				
		収入金額	4,099,339						
支出の部		事務局	給与	2,400,000	200,000 ×	12	人件費・事務局員1人		
			通信費	168,500	×	1	Zoom一式含む		
			備品費/消耗品費	7,685	×	1	ポスターケースなど		
			広報活動費	168,923	8,580 ×	12	メール配信システムサーバー、印刷費： みんなで再生		
			旅費交通費	15,740	×	1	おもに現地打合せ		
			賃借料	227,750	×	1	会議、会場費用(企画運営委員会など)		
			雑費	2,640	×	1	振込手数料等		
				事務局経費計 (1)	2,991,238				
				東京湾 再生官 民連携 フォー ラム	謝金	60,000	20,000 ×	3	交流会等
					広報活動費	474,279	×	1	東京湾の日PR(川柳などコンテスト)、交 交流会等
					賃借料	227,750	×	1	会議、会場費用(交流会など)
					旅費交通費	57,714	×	1	会議等現地打合せ
					通信費	149,840	×	1	交流会、パネル送料など
					備品費/消耗品費	38,518	×	1	交流会封筒など
				フォーラム活動費計 (2)	1,008,101				
		支出金額	3,999,339						
象 外 対		助成	会議費	50,000			会議用お茶代		
		対	雑費	50,000			タクシー代等		
		支出・小計	100,000						
		支出金額	4,099,339						
		残高	0						

## チームメンバー

### 東京湾再生・感謝祭デザインチーム(敬称略、順不同)

- ・デザインチームは、東京湾大感謝祭の企画・運営・実施チーム。  
実施のための企画の議論・検討、現場の進行、開催への実務準備を行う。

チーム長：山縣 宣彦

青山 紘悦、中沢 優也、飯干 歩、青野 仁哉、西村 侑紗、三橋 文雄、高阪 雄一、伊勢 勉、名嘉 元康、河合 康統、和田 光央、長尾 潤、服部 友則、森田 浩史、渡邊 勇介、和田 文典、安藤 彰、郷原 圭介、井上 楓、中村 真大、福島 優、岡田 知也、池上 正春、山口 兼人、谷口 理、菊原 麻理奈、木村 尚、村野 隆一、早武 忠利、吉野 生也、小形 隆司、牧野 光琢、田村 聖花、田久保 雅己、野口 孝俊、吉原 純夫、三橋 和也、稲村 康之、松田 康平 寺元 敏光  
事務局(吉澤、細川 間瀬、青柳)

### 広報コミュニケーションチーム参加メンバー

- ・東京湾再生のための行動計画(第三期)、東京湾再生官民連携フォーラム等、東京湾に関する広報活動の検討、企画提案等をおこなうチーム

チーム長 來生 新

古川 恵太、菊原 麻里奈、寺元 敏光、田村 聖花、池上 正春、片所 達則、山口 兼人、横山 清美、細川 恭史、間瀬 範幸

---

 <p>東京湾再生官民連携フォーラム</p>	 <p>セブン-イレブン記念財団</p>
<p>東京湾の未来へ 2013-2032</p>	<p>東京湾の魅力をみなさまに 東京湾再生アンバサダー 榎 太一 アナウンサー ガリガリ君 赤城乳業(株)</p>